

# F 老人福祉・保健編

F722-1 在宅ケア支援シリーズ自立をたすけ介護力を高める福祉用具 DVD全10巻 東シネ	
セット内容	<b>F722</b> 移動編 <b>F723</b> 入浴編 <b>F724</b> 排泄編 <b>F725</b> ベッド編 <b>F749</b> 食事編 一食べる機能の改善— <b>F750</b> 自助具編 一生活の幅を広げるために— <b>F785</b> 住環境編 一バリアフリーに向けて— <b>F786</b> コミュニケーション編 <b>F804</b> 外出編 <b>F805</b> 選定・導入のポイント編
監修	東京大学医学部教授 加倉井周一 東京都立医療技術短期大学教授 寺山久美子 日本大学理工学部助教授 野村 歆 東京都立医療技術短期大学教授 松村 秩
撮影指導・協力	日本作業療法士協会
ポイント	高齢社会の到来とともに、介護を要する高齢者の数は年々増加する傾向にあります。今日、身体の不自由な障害者や高齢者が、自立した生活を取り戻し、かつ、介護者の負担を少しでも軽減するための福祉用具の普及は、非常に大切な社会的課題です。一方、福祉用具に対する技術の進歩はめざましく、多種多様な用具が研究・開発されています。このビデオは、そうした福祉用具の機種と、その使い方等を日常生活動作毎に分類して紹介し、用具に対する正しい基礎知識を身につけていただくために製作したものです。
<b>F722</b>	<b>移動編</b> 時間27分
<p>○トイレへ、浴室へ、食卓へ…と、自分の足で歩く、つまり、移動するという事は、生活の基本とも言える大切な動作である。しかし、障害があったり、高齢になるに従って、一見簡単な動作も、なかなか思うようにできなくなる。そのため、介護する家族の苦勞も並大抵ではない。しかし、福祉用具を上手に利用することで、かなり自立した生活を取り戻すことも不可能ではない。「移動編」では、脳卒中で倒れた高齢者が、日々の生活に福祉用具を取り入れ、機能回復訓練を続けることで、自力歩行に挑戦する姿をドキュメントで追いながら、さまざまな移動のための用具を紹介する。</p> <p>○杖、歩行器、歩行車、シルバーカー等の、歩行補助具について、それぞれの用具の特徴、使う目的を解説する。</p> <p>○移動のための用具として、一般に最もよく知られている車椅子。一口に車椅子といってもその種類は多い。ここでは、使う人の障害の程度や目的に合わせて、さまざまな車椅子を紹介。そして、選ぶときのポイント、使い方、介助の方法、さらに、車椅子への移乗の仕方について分かりやすく紹介する。</p> <p>○その他の移動のための用具。</p> <p>車椅子を使うにしても、日本の家屋では、なかなかそのための環境が整わないのが実情である。それを、解決するにはどうしたらよいのだろうか。ここでは、段差解消リフトをはじめ、段差を解消するためのさまざまな工夫などを紹介する。また、車椅子やベッドからの移動を助ける立ち上がり補助棒やてすり、さらに、介護者の負担を少なくし、浴室やトイレへの移動を可能にする天井走行リフト等を、実際に使用している人々の姿を通して紹介する。</p>	
<b>F723</b>	<b>入浴編</b> 時間25分
<p>○欧米人に比べ、日本人はことのほか風呂好きである。そして、独特の文化を築いている。</p> <p>しかし、身体の不自由な人の入浴は、大変危険で、本人にとっても、介護する家族にとっても、多くの困難をともなう難事業でもある。</p> <p>それは、一段と低くなった浴室への出入り、滑りやすいタイル、浴槽の縁の高さ等が大きな原因になっているが、そうした問題を解決するために、住宅改造とまではいかなくとも、ちょっとした入浴のための用具を上手に利用することで、より安全な入浴が可能になる。</p> <p>○「入浴編」では、てすり、シャワーチェアー、滑り止めマット、移乗板、椅子などの入浴用具の紹介とともに、入浴についての留意点や、シャワー浴の仕方、安全な入浴のための浴室環境の改善、全面介助の仕方について解説し、併せて、浴槽に入れない場合の清拭や訪問入浴についても紹介する。</p>	
<b>F724</b>	<b>排泄編</b> 時間25分
<p>最もプライベートな行為である“排泄”。</p> <p>“排泄”は、体の不自由な高齢者や障害者にとって、また、介護する家族にとって、大変負担のかかる行為である。このビデオでは、脳卒中で倒れた場合を中心に、できるだけ自分の力で排泄ができるようになるための改善や介護の仕方、および、さまざまな福祉用具の使い方を紹介する。</p> <p>○寝たきりで、尿意、便意が伝えられない場合の“おむつ”の使用にあたってのポイントや留意点について、実際の交換場面等を通して解説していく。</p> <p>○続いて、尿意、便意が伝えられ、片手が動き、腰上可能な場合の便器や尿器の使用について。</p> <p>その効果的な使用の工夫や配慮とともに、“新聞紙を使った”排便の様子など便器に変わる排便の工夫を紹介。</p> <p>○更に、座位が保てて、ベッドから降りられるようになれば、ポータブルトイレの使用を考えたい。ここでは、ベッドからポータブルトイレへの移乗にあたっての介護の仕方。さまざまなポータブルトイレの長所と短所。移乗のための補助具(リフト)を中心に見ていく。</p> <p>○少しでも自力歩行が可能になれば、トイレでの排泄も夢ではない。</p> <p>トイレを安全に、しかも、介護者の負担をできるだけ軽減して使用するために、是非考えたいのが“トイレの改造”である。</p> <p>○四年前、脳卒中で倒れた山口瑛子さんは、毎日の生活訓練を通して、“おむつ”から自力でトイレに行き、排泄ができるまでに回復した。</p> <p>その山口さんが、“おむつ”使用の苦痛と“排泄の自立”を取り戻した喜びを語る。</p>	

**F725****ベッド編**

時間25分

ベッドは、体の不自由な高齢者や障害者が生活していくうえで欠かせない大切な福祉用具である。

クモ膜下出血で倒れた小黑達夫さん(63)は、一日の大半をベッドで過ごすのが、ベッドの利点を最大限に活用し、ベッドに腰掛けられるまでに回復した。

- ベッドには、据え置き型ベッド、背上げベッド、ギャッジベッド、ハイロー式ベッドなど、さまざまな種類のベッドが開発されている。今日、在宅療養に使われているのは、ギャッジベッドや、背上げ機能の付いたハイロー式ベッドが主であるが、このビデオでは、それぞれのベッドの機能や特徴について、実際にベッドを取り入れている人々の生活を通して分かりやすく解説する。
- ベッドを使用する際には、さまざまな関連用具(付属品)についての知識も重要である。ベッドの基本的な関連用具であるマットレス、ベッド用パット、サイドレール、移動用バー、リフト、床擦れ防止のための円座やパット、エアーマット等についても分かりやすく紹介している。
- 日本人は、とくに高齢者は布団の生活が長く続いてきたため、ベッドのある生活には馴染みにくく、抵抗感を持つ人が少なくない。また、日本式の住宅事情が、ベッドの普及を遅らせている要因にもなっている。しかし、最近では、多くの自治体で住宅改造を含めた福祉サービスの充実が図られている。
- ベッドの使用は、残された機能を改善し、寝たきりを防ぐための大切な福祉用具である。このビデオでは、寝たきりを防ぎ、できるだけ自立した生活を取り戻すためのベッドの重要性を訴えている。

- 福祉用具・福祉サービスのご相談は—
- 市区町村の福祉担当課
  - 福祉事務所
  - 都道府県の高齢者総合相談センター
  - 在宅介護支援センター
  - 介護実習・普及センター
  - 社会福祉協議会 などへ

**F749****食事編 —食べる機能の改善—**

時間29分

高齢者や障害者が、たとえ体が不自由でも、さまざまな福祉用具を活用することによって不自由さを克服し、自立した食生活を送ることができる。「食事編」では、事例の中に具体的な用具の利用を紹介するとともに、食事をする際の人体のメカニズムも併せて解説していく。

- 食べる仕組みと姿勢  
人が食事をするときの基本的な姿勢は座位であるが、体の障害の度合いによって、ベッドの上などで寝たまゝの状態でも食事せざるをえない場合がある。食事をするという行為と脳の働きには密接な関係があり、たとえ寝たきりの人の場合でも介護者になるべく背上げをするなどして座位に近い状態で食事をとることが望ましい。背中を起こすことで食べ物を目で確認し食欲が起こることもある。そのことは脳の働きを活性化させるという相乗効果を生む。
- 食べる機能の障害を改善するために  
食道に入るべき食べ物や唾液が気道に入ってしまうという嚥下障害(誤嚥)。脳卒中などの後遺症のために摂食機能の低下している人には、この誤嚥を未然に防ぐためにも、リハビリ科の医師や言語療法士、理学療法士などの指導を仰ぎたい。  
また口の中は菌の宝庫であり、とくに入れ歯の人は食べ物の残りかすで菌を増殖させ誤嚥性肺炎をひき起こす危険があるので、日頃から口腔内の清潔には心がけておきたい。
- 在宅で自立した食生活を送る  
とろみ食は、誤嚥しやすい人が食事する際に有効な調理法である。脳梗塞のために入院した井上登喜郎さんは退院後、病院で受けた訓練の結果、とろみ食が食べられるようになり、現在は自分でも市販のとろみ剤を使って食事をつくり、自立した食生活を送っている。食べ物の風味と彩りを最大限に生かしてとろみ食を楽しんでもらおうと、小田原市の特養ホーム潤生園では、入居者のみならず、地域に住む在宅高齢者に配食サービスを行い、おいしい食事を楽しんでもらっている。

**F750****自助具編 —生活の幅を広げるために—**

時間26分

- 自助具とは  
高齢や障害のために体が不自由な人が、日常の生活動作を少しでも自分でできるように工夫した道具、それが自助具である。
- 自助具製作のボランティアグループ「自助具の部屋」の活動  
自助具は障害者の数ではなく、障害の数だけ必要だといわれている。「自助具の部屋」はその多様なニーズに応じていこうと発足したグループである。片マヒやリウマチのため手先足先が不自由な人でも手軽に使える爪切り、パソコンのキーボードのキーの打ち損じを防ぐキーボードカバー。さらに片マヒの人でも使える毛糸編み機なども製作し、グループがつくる自助具は趣味の域にまで及び、ユーザーの生きがいづくりにも貢献している。
- 笠井富士子さんの場合  
子どものときにポリオに罹り、以来30年以上車椅子を使って一人暮らしを続けている笠井さんは、さまざまな自助具に支えられて生活している。窓の開閉に使うアルミ製の棒、落とし物を拾うリチャーといったものから、ダイニングキッチンや流し台の改造まで、その工夫には目を見張るものがある。笠井さんは言う。「こういう自助具が欲しいというアイデアを常に持ち、作業療法士などの専門家に相談する積極性を持つことが自立への第一歩」
- 川本昌代さんの場合  
川本さんは、慢性関節リウマチのため手指が拘縮している。川本さんが活用しているのは、熱いお湯を注ぐと粘土状になるプラスチックである。どのような形にも変形し、冷えると固まるこの材料を、さまざまな生活用具に取り付けることで生活の幅は広がりをもっている。もちろん川本さんの自助具はまだ数多い。その数は34種類もあるという。川本さんも笠井さんと同じように自分でアイデアを持ち、自助具の工夫を楽しんでいる。
- 笠井さん、川本さんたちにとって、自助具は単に福祉用具である以上に、ほとんど体の一部ともいえるほど重要な役割を担っている。

<b>F785</b>	<b>住環境編 -バリアフリーに向けて-</b>	<b>時間28分</b>
<p>○在宅で生活している身体の不自由な高齢者や障害者に、自立した生活を実現してもらうために、住宅を整備し動作しやすい環境をつくっていくことは大切である。このビデオでは実際に住宅をリフォームしたり、アイデアを生かした改造を行っている事例を通して、住環境を整備するにあたっての基本的な留意点を紹介していく。</p> <p>○日本家屋のひとつの特徴として、段差の多いことが挙げられる。この段差によって転倒して怪我をしたり死亡する例も多い。またトイレ、浴室も狭い空間のわりに、介護者、要介護者ともさまざまな動作を必要とする場所である。こうした場所の改造について具体的な事例を紹介する。</p> <p>○多くの費用をかけて改造することはたやすい。少ない費用で、より効果的な住環境を整備していくために、作業療法士、理学療法士などの専門家にアドバイスを受けるのも重要である。また、高齢者の身になって、住み慣れた住まいの雰囲気を大事にした住環境整備を心がけたい。</p> <p>○神奈川県<small>の</small>城山町社会福祉協議会では、住宅改造の相談業務をおこなっている。相談者の生活状況をリサーチし、高齢者障害者住宅に理解のある一級建築士に設計を依頼する。また横浜市では、医療、保健、福祉の専門職に建築士などのエンジニアが加わり、チームとなって住宅整備事業に取り組んでいる。こうした社協や行政の取り組みはこれからの在宅ケアアプローチのひとつの模範であるともいえるだろう。</p>		
<b>F786</b>	<b>コミュニケーション編</b>	<b>時間28分</b>
<p>○障害、病気のために「話す」「聞いて理解する」などのコミュニケーション機能に障害があると、社会生活を営む上で、人との交流が閉ざされ、生きる意欲さえ失う危険もある。そこで、有効なコミュニケーション機器の各種とその使い方、そしてよりよいコミュニケーションの工夫についてみていきたい。</p> <p>○聞く機能の改善～老人性難聴～ 老人性難聴は耳鼻科の医師に相談することが第一だが、補聴器を使うことでも改善される。ただ補聴器は細かい操作を必要とする器械であり、高齢者には使いにくいところもある。取り扱いを使う本人だけでなく、家族やまわりの人もマスターしたいものである。また補聴器をつけているからといって、それで健聴者と同じ聴力が得られるわけではない。まわりの人ははっきりと分かりやすい口調で話しかける配慮が必要である。</p> <p>○言語障害～失語症～ 話したいことは山ほどあるのに肝心の言葉が出ない。失語症患者のコミュニケーション障害は深刻である。会話が困難なために人との接触を避けたがる人もいるという。松戸市立病院では在宅の失語症の人たちを集めグループで言語訓練を行っている。同じ失語症仲間と訓練を重ねることで話すことに積極的になる。幼児用の絵カードも訓練用に活用している。</p> <p>○その他、一人暮らしの高齢者に利用を勧めたい「緊急通報システム」、難聴者に手軽に使える拡声器や音量拡大電話も紹介する。さらに事故で頸椎を損傷したために重度の障害をもつ人が「環境制御装置」というハイテク機器で、自宅にいながらにして外部とのコミュニケーションを図っている事例、筋萎縮性側索硬化症という難病にかかりながらも、さまざまなコミュニケーション用具を使って社会参加を果たしている事例を紹介する。</p>		
<b>F804</b>	<b>外出編</b>	<b>時間30分</b>
<p>○身体の不自由な高齢者や障害者にとって外出のすばらしさを知っていただき、一人でも多くの人たちが進んで外出を楽しんでもらうことを主眼に置いた作品です。</p> <p>○外出することで話題が豊富になり、生活に張りが出てきます。外出は人との出会いや四季の変化を楽しみ、外気浴や日光浴など、心と体をリフレッシュし、その人の生活意欲を向上するのに有意義な効果があります。</p> <p>○福祉用具を上手に使うことで、積極的に仲間と交流したり、音楽会やショッピングなど、より多くの外出の機会を得ることもなります。それらを有効に使い介護者も要介護者も喜びを分かち合うことが確信できることでしょ。</p> <p>○さまざまな工夫を凝らした自動車や電動車イス、可変式階段昇降機など、アイデアをこらした機器を知ってもらうことも必要です。</p> <p>○個人の工夫もさまざまで、介護する側も介護される側も、たゆまぬ努力を行っています。ちょっとしたアイデアによって、今まであまり関心のなかった外出も、新たな気持ちで始めることができ、これからの生き方に変化が生まれることでしょ。</p> <p>○更に、高齢者も障害者も自由に外出を楽しめる環境づくりの必要性など、バリアフリーの町づくりの重要性を訴えていきたいと思ひます。</p> <p>○そして、本来の福祉用具の持つ役割をみんなで考えるきっかけにして下さい。なによりもまず気持ちを外に向けていきたいものですね。</p>		
<b>F805</b>	<b>選定・導入のポイント編</b>	<b>時間30分</b>
<p>○国際福祉機器展。そこにはさまざまな知恵と工夫をこらした福祉用具が展示されています。これらの福祉用具は近年目覚ましい発展を遂げ、多種多様な機器が開発販売されています。</p> <p>○そんな福祉用具をいかに選定導入するかは介護者にとっても要介護者にとっても難しい問題です。本来、福祉用具は在宅介護を支援するためのものですが、考え方として始めに福祉用具ありきではなく、あくまで自立を促し、生活の安定を目指すためのものだとすることを忘れないでほしいと思ひます。</p> <p>○福祉用具選定導入のポイントを、さまざまな失敗例としてショートドラマ仕立てで見せながら分かりやすく紹介し、それらの問題点を明確に解説することによって、今まで気がつかなかった問題を探ってみたいと思ひます。</p> <p>○福祉用具選定のポイント Ⅰ 使用目的を明確にする Ⅱ 本人と用具の適合 Ⅲ 介護者と用具の適合 Ⅳ 用具と環境の適合 Ⅴ 可能な限り試用する Ⅵ 費用・公的助成は…</p> <p>○そして、これらのポイントを念頭に、新たな福祉用具のあり方、周囲のサポート体制を考えていきましょう。</p>		

<b>F787-1 やさしい栄養学 第3版</b>		DVD 全6巻 医映	
セット内容	<b>F787</b> 栄養学とは	<b>F790</b> ライフステージと栄養	
	<b>F788</b> エネルギーとなる栄養	<b>F791</b> 疾病と栄養	
	<b>F789</b> 身体をつくる栄養	<b>F792</b> 健康と栄養	
<b>F787</b>	<b>栄養学とは</b>	時間35分	
<p>栄養学は食品や体内での栄養素の役割を基本として人の健康増進を担う学問です。この巻では、栄養学の成り立ち、栄養とは何か、食物と栄養素、食品群や食事摂取基準(2010年度版)、食生活や食行動などについて解説します。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授</p>			
<b>F788</b>	<b>エネルギーとなる栄養</b>	時間37分	
<p>私たちが身体を動かし、生命を維持するためには、食物からエネルギーを摂取することが必要です。この巻では、食物を消化・吸収するための消化管の構造、エネルギーとなる栄養素の消化・吸収のしくみ、それらの栄養素を含む食品について解説します。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授 [学術指導]荒木英爾 女子栄養大学 保健センター所長</p>			
<b>F789</b>	<b>身体をつくる栄養</b>	時間44分	
<p>私たちの身体を支える筋肉や骨、体内のさまざまな機能に関わる物質は、食物から摂取する栄養素によってつくられています。この巻では、身体を構成し、生理機能を円滑に営むために重要な栄養素の消化・吸収の仕組み、それらの栄養素を含む食品について解説します。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授 [学術指導]荒木英爾 女子栄養大学 保健センター所長</p>			
<b>F790</b>	<b>ライフステージと栄養</b>	時間41分	
<p>乳児期・幼児期などの成長期を経て人生を全うする高齢期まで、私たちの一生の身体や栄養の状態は変化しています。それぞれのライフステージ適した栄養の摂りかたや各ライフステージにおける、食や栄養のポイントなどを実写やCGでわかりやすく解説します。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授</p>			
<b>F791</b>	<b>疾病と栄養</b>	時間43分	
<p>疾病の治療・予防における栄養の役割は、近年ますます増加しています。この巻では、治療食や栄養法の分類、代表的な疾患とその栄養・食事療法、栄養療法の一例について解説しています。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授 [学術指導]荒木英爾 女子栄養大学 保健センター所長</p>			
<b>F792</b>	<b>健康と栄養</b>	時間42分	
<p>肥満や痩せ、食物アレルギー、健康食品、サーカディアンリズムと栄養など、現代の食生活や栄養に関する問題とより健康的な生活を送るための栄養や食事について解説します。</p> <p>[原案監修]岩間範子 女子栄養大学 短期大学部 教授 [学術指導]荒木英爾 女子栄養大学 保健センター所長</p>			

セット購入サブノート付き

<b>F808 ぼけと向きあう日々 ー痴呆性老人の介護ー</b>		DVD 時間46分 東シネ	
監修	川崎幸病院副院長 杉山孝博		
<p>高齢化社会の進展と共に、高齢者介護の問題、特に痴呆症の高齢者の介護の問題がクローズアップされてきています。しかし、痴呆症は医学的にもその発症のメカニズムは十分に解明されておらず、症状の出方も一定でないため、周囲の理解を得づらいつながりがあります。そのため痴呆症の高齢者を介護する家族の負担は非常に大きく、疲労と混乱の日々を送っているのが現状です。</p> <p>そうしたなか、同じ立場にある者同士が集い、同じ問題について語り合い、方向性を見出そうとする動きがあります。そうした家族の方たちは、介護に追いつめられることのないよう、接し方のコツを身につけ、納得のいく介護ができるようになるための歩みを続けています。</p> <p>このビデオは痴呆性老人を介護する家族が痴呆をどのように受けとめ、支えていけばよいか。介護する家族も、される高齢者も追いつめられることなく生活していくためにはどうしたらよいかを考えていただくとともに、痴呆性老人に対する理解を深めていただくために制作されたものです。</p> <p>★痴呆症の方の介護で大切なことは、痴呆を理解すること、そして、相手をしっかりと受けとめ、尊厳を大切にしながら接することです。知能は衰えても、人間としてのプライド、嬉しい、悲しいなどの感情は研ぎすまされていきます。たとえ、ぼけても最後まで人間らしい生活が継続できる社会。痴呆は社会全体で受けとめていく問題です。</p>			

F813-1		らくらく 安心介護のコツ 老人介護ビデオシリーズ	DVD全2巻 INT
セット内容	<b>F813-3</b> 1.お年寄りの心とからだ 2.食事のお世話 3.清潔のお世話(1) 入浴 4.清潔のお世話(2) 清拭・部分浴	<b>F817-3</b> 5.排泄のお世話(1) トイレ・ポータブルトイレ 6.排泄のお世話(2) 差しこみ便器・オムツ・失禁 7.からだの移動 8.快眠のための工夫と床ずれ防止	
監修	日本赤十字社医療センター看護部 看護部長 森光徳子		
指導	日本赤十字社医療センター 前・看護副部長:金田和子 看護副部長:村上睦子		
ポイント	お世話する人も、される人も、知っていれば安心です。見てすぐできる介護の“コツと工夫”を満載。 「らくらく安心介護」には、お年寄りの身になって、本人ができない部分を上手にお手伝いする知恵がつまっています。日赤医療センターで長く看護に携わってきたベテラン婦長が、実践から生み出したコツと工夫を、家庭でできる具体的な方法としてお届けします。 見てすぐできる「コツと工夫」が満載です。		
<b>F813-3</b>	1.お年寄りの心とからだ 2.食事のお世話 3.清潔のお世話(1) 入浴 4.清潔のお世話(2) 清拭・部分浴		
内 容	1.お年寄りの心とからだ(時間20分) ある一家の生活場面を通し、お年寄りの心とからだの特徴、家族のかかわり方をミニドラマ形式で紹介していきます。 [主な内容]●お年寄りの体を知る/内臓機能の衰え/運動機能の衰え/感覚機能の衰え/その他の老化現象 ●お年寄りの心を知る/長い人生経験/老人扱いは禁物/役立っている実感が大切/さまざまな心の変化		
	2.食事のお世話(時間25分) お年寄りが楽しく、おいしく食事を楽しむための具体的な方法、コツを紹介。麻痺がある場合の対応も工夫しています。 [主な内容]●食べやすい調理の工夫 ●食べやすい姿勢づくり ●食事は家族といっしょに、和やかに ●片麻痺で、起きられる場合のお世話 ●寝床の上で食事をする場合のお世話 ●寝たまま食事をする場合のお世話 ●健康なお年寄りへの心づかい ●問題がある時		
	3.清潔のお世話(1)入浴(時間20分) 入浴の介助は重労働ですが、お年寄りの心も体も爽快にしてくれます。安全に、最小限の労力で介助する方法を紹介。 [主な内容]●安全なお風呂場とは ●入浴にあたって気をつけること ●入浴前の健康チェック ●片麻痺があっても、ひとりで行える入浴法 ●介助が必要な時の入浴法 ●介助する場合の体の洗い方 ●シャワー浴や入浴サービス		
	4.清潔のお世話(2)清拭・部分浴(時間25分) ベッド上で行う清拭や部分浴、そのほか自分でできない場合の清潔のお世話を、コツを踏まえて紹介します。 [主な内容]●寝たままでの体の拭き方(清拭) ●手や足、陰部の洗い方(部分浴)●ベッドで行う洗髪の方法 ●洗顔・ひげそりのお世話 ●歯磨き・入れ歯洗浄のお世話 ●整髪と目のお手入れ ●鼻と耳のお手入れ ●爪と皮膚のお手入れ		
<b>F817-3</b>	5.排泄のお世話(1)トイレ・ポータブルトイレ 7.からだの移動 6.排泄のお世話(2)差しこみ便器・オムツ・失禁 8.快眠のための工夫と床ずれ防止		
内 容	5.排泄のお世話(1)トイレ・ポータブルトイレ(時間20分) 排泄のお世話は、介護の中でも心身ともに負担が大きいもの。介助法を身につけることはもちろん、家族の協力が大切です。 [主な内容]●安全で使いやすいトイレ ●ひとりでトイレに行ける場合 ●トイレで介助が必要な場合 ●ポータブルトイレを使う場合/ポータブルトイレの設置/片麻痺があっても、ひとりで使う場合/お世話が必要な場合 ●排泄のお世話がうまくいくポイント ●便秘を解消するには		
	6.排泄のお世話(2)差しこみ便器・オムツ・失禁(時間25分) 排泄のお世話を人に頼るお年寄りは、家族への気兼ねを抱えています。つらい気持ちを察して、思いやりの介護を。 [主な内容]●尿器の上手な使い方=尿器の当て方/介助が必要な場合 ●便器の上手な使い方=便器の準備/腰が上げられる場合/腰が上げられない場合 ●オムツにする前に ●オムツの上手な替え方 ●失禁がある場合		
	7.からだの移動(時間25分) 寝たきりを防止するためにも、体の移動はととても大切です。安全に配慮し、少しでも楽に介助ができる工夫を紹介します。 [主な内容]●上体を起こすお世話 ●ベッドから椅子への移動法 ●立ち上がるお世話 ●車椅子の用い方 ●体を動かすお世話のコツ ●歩く時のお世話 ●転倒を防ぐ安全対策 ●階段の上り下り ●段差の越え方		
	8.快眠のための工夫と床ずれ防止(時間25分) 弱っているお年寄りほど、心地よく睡眠をとるのが難しいもの。さまざまな工夫や方法を試みて、お年寄りの援助を。 [主な内容]●快適な寝具の選び方 ●シーツを上手に敷くには ●寝巻の工夫と着せ替え方 ●快眠のための用具の工夫 ●眠れない時のお世話●床ずれの原因とてきやすい部位 ●床ずれを予防しよう ●床ずれの手当		

<b>F821</b>	ケアマネジメントにおけるケアプランの作り方 VHS 全2巻 中央
監修	大阪市立大学生活科学部人間福祉学科教授 白澤政和
ポイント	生活ニーズを抜きにして、ケアマネジメントは語れない。 介護保険の導入を契機として、ケアマネジメントの議論が活発化しています。アセスメント用紙も数多く開発され、アセスメントの精緻化と要介護者等の生活の全体をとらえる努力が進められています。しかしながら、アセスメントの結果として導きだされるべきケアプランの作成方法やケアプランの中核をなす生活ニーズの導きだし方については、ほとんど言及されることなく、ブラックボックスとなっています。これが、ケアマネジメントの実践を最も困難にしている部分でした。当ビデオは、九州のある都市で実際に行われたケアマネジメント過程を紹介しながら、このブラックボックスを解き明かしていきます。
内容	1.生活ニーズのとらえ方(時間37分) 生活ニーズは生活を構成するさまざまなファクターが関連し合って生じます。第1巻のテーマは、「ニード優先アプローチ」。アセスメントの結果を解きほぐしながら、要介護者や家族と一緒に生活ニーズをとらえていきます。 夜空に輝く満天の星。 生活ニーズのとらえ方は星座探しにたとえることができます。
	2.生活ニーズからケアプランへ(時間37分) 要介護者や家族の「気持ちに添った支援」をテーマに、生活ニーズをどのようにしてケアプランに具現化していくのかを紹介していきます。また、ケアカンファレンスのあり方やモニタリングの重要性にも言及するとともに、「自立支援」の意味と方法を事例を通して考えていきます。

<b>F823-1</b>	健康ビデオシリーズ DVD 全3巻 PHP
セット内容	<b>F823</b> タバコと健康 — 煙の害は周囲にも <b>F824</b> 生活習慣病と食生活 — あなたの食事は大丈夫? <b>F825</b> 運動不足解消 — 手軽にできる体力アップ法 —
ポイント	元気に働き はつらつと生きるために 私たちは、多忙な毎日に追われ、つい運動不足になったり、偏食になりがちです。また、ストレスが知らず知らずのうちにたまり、タバコの本数も増える傾向にあります。そのため、気がつかないうちに健康が触まれて、後で取り返しのつかないことに…、という状態を招きかねません。このPHP健康ビデオシリーズは、『自らの健康は、自らの心がけと努力で維持していくもの』であることを正しく認識し、そのための知識を身につけてもらうためのものです。  《特徴》 その道の専門家が、具体的にアドバイスをしています 啓発だけでなく実際に効果ある実践法を紹介しています 各巻約10分の内容なので、職場での勉強会などに手軽に使えます
<b>F823</b>	タバコと健康 — 煙の害は周囲にも! 約10分
タバコを吸わないことが世界の常識になりつつある今日、それでもあえて吸い続ける人は決して少なくありません。タバコが確実に自らの、そして周りの人々の健康を蝕んでいくことの恐ろしさと、タバコをやめる方法を紹介・解説します。 [監修] 藤本エドワード(東京衛生病院健康教育部長) ●認識不足は命を奪う ●タバコの害 ~身体を蝕むタバコの煙~ ●タバコはやめられないのか ~断煙と健康~ ●禁煙さもなくば分煙	
<b>F824</b>	生活習慣病と食生活 — あなたの食事は大丈夫? 約10分
飽食の現代は、同時に様々な病気に悩まされる時代ともいえます。日常の生活を送るうえで欠かせない食事が、高血圧・糖尿病等の生活習慣病に大きくかかわっていることの実態を知るとともに、その対処法を学んでいきます。 [監修] 宗像伸子(栄養コンサルタント) ●現代人の「食」~飽食、実は偏食~ ●生活習慣病が重病を招く ●あなたの知らない栄養とカロリー ●理想の食卓① ~家庭でまず減塩~ ●理想の食卓② ~外食で気をつけること~	
<b>F825</b>	運動不足解消 — 手軽にできる体力アップ法 — 約10分
最近、何となく身体の調子がスッキリしない、という状態が続いている人が急増しています。その原因の多くは運動不足による基礎体力の低下です。ここでは、体力アップをはかるための手軽で実践的な運動を紹介していきます。 [監修] 琉子友男(東京都立大学院助教授 医学博士) ●運動不足が引き起こす多くの病気 ●ウォーキングをしよう ~効用とその方法~ ●その他の体力アップ法 ●運動前に体調チェック ~チェックリスト~	

<b>F826-1</b> 基本介護技術		DVD 全5巻 東シネ
セット内容	<b>F826</b> 基本介護技術Ⅰ <b>F827</b> 基本介護技術Ⅱ <b>F828</b> 基本介護技術Ⅲ	<b>F829</b> 基本介護技術Ⅳ <b>F830</b> 基本介護技術Ⅴ
企画	財団法人 東京都地域福祉財団 東京都福祉人材開発センター	
ポイント	介護を必要とする人に適切な介護を提供するためには、介護技術の基本をしっかりと学び、身につけ、実践していくことが大切です。このビデオは、ホームヘルパー養成講習・2級課程における基本介護技術の映像教材として製作されました。テキストでは表現できない実際の動きを見ることによって介護技術のポイントが理解されやすいように配慮してあります。養成に関わる講師の方々をはじめ、自治体職員の方、更にホームヘルパーをめざす受講生の方々への研修や教材としてご活用下さい。	
<b>F826</b>	基本介護技術Ⅰ	時間18分
1) 介護者自身の健康管理 ●ボディメカニクスの原則と実際		
2) 寝具の整え方 ●シーツのたたみ方 ●ベッドメイキング ●シーツ交換		
<b>F827</b>	基本介護技術Ⅱ	時間27分
1) 寝床上での体位の変換		
2) 褥瘡の予防		
3) 車いすへの移乗と介護		
4) 杖歩行の介護		
5) 視覚障害者の介護		
<b>F828</b>	基本介護技術Ⅲ	時間23分
1) 衣類着脱の介護		
2) 食事の介護		
3) 口腔の清潔		
<b>F829</b>	基本介護技術Ⅳ	時間33分
1) 身体の清潔 ●清拭 ●入浴の介護 ●熱布浴 ●洗髪 ●足浴		
<b>F830</b>	基本介護技術Ⅴ	時間34分
1) 排泄の介護 ●布おむつのあて方 ●便尿器の介助 ●ポータブルトイレへの移乗介助		
2) 緊急時の対応		

<b>F809</b>	老いと病い 家で過ごす場合 -24時間在宅ケアのある町-	DVD 時間41分 桜
企画にあたって 宇都宮幸枝		
<p>超高齢化社会の到来を前にして、在宅介護のシステムをどのように組み立てたらいいのかが、大きな問題として問われています。それぞれの町や村に合ったシステムが作り上げられるために、当分思考錯誤が続くと思います。こうした時、デンマークやスウェーデンなどのモデルではなく、日本でも在宅介護の態勢ができてきていることをお知らせしたいと、このビデオを作りました。</p> <p>これは、東京の足立区千住の実践の記録です。このちいさな地域で育っている在宅介護の在り方には、様々な思いやりと工夫がこらされています。老いた人だけでなく、からだの不自由な人や病んだ人の望みを大切にできるためのシステムとは何かを、皆で考えていくために、私たちは現在(介護保険実施以前)の最前線での活動を捉えたつもりですが、これからの態勢が一層進んだものになっていくことを願っています。</p> <p>東京都内、荒川と隅田川に挟まれた足立区の千住は、江戸時代から栄えた下町です。東京でも高齢化の進んだこの町には、独自に築きあげてきた医療と福祉のネットワークがあります。</p> <p>この町には、24時間いつでも、老いた人や病む人の声に応える人たちがいます。</p> <p>人がその人らしく安心して暮らしていくために、本当に必要なものは何なののでしょうか?その大きな問いに答えるひとつの実践がこの町で行われています。</p>		

<b>F831-1</b>	<b>食品衛生ビデオシリーズ</b>	<b>DVD 全2巻 PHP</b>
セット内容	<b>F831 知ってますか?食中毒菌の恐ろしさ</b> <b>F832 本当に清潔ですか?洗浄の心得</b>	
監修	小沼博隆(医学博士 国立医薬品食品衛生研究所・衛生微生物部第二室長) 武政二郎(イカリ消毒株式会社・環境文化創造研究所主任研究員)	
<b>F831</b>	<b>知ってますか?食中毒菌の恐ろしさ</b>	<b>約20分</b>
<p>私たちの身の回りには無数の細菌が生息しています。その中のある種類のもは、食中毒の原因菌となり、下痢や発熱、吐き気、頭痛、腹痛、呼吸困難等の症状を引き起こし、場合によっては死に至らしめるものもあります。そして、水分、温度、栄養という3つの条件が揃えば、どんどん増殖するという困った存在でもあります。食品を扱う仕事に携わる人は、衛生の面から食中毒菌の実態と恐ろしさを認識し、食中毒を発生させない行動をとらなければなりません。このビデオは、食中毒菌の恐ろしい事実を紹介し、衛生や食中毒予防の大切さを教えていくものです。</p> <p>●食中毒菌の種類と特徴 ●手洗いは食中毒予防の基本中の基本 ●食中毒菌汚染を防ぐ3原則 ●見落としがちな傷・手荒れ</p>		
<b>F832</b>	<b>本当に清潔ですか?洗浄の心得</b>	<b>約20分</b>
<p>私たちの目で細菌を直接見ることはできません。だから、きれいだと思っているところに、意外と細菌がたくさん生息していたりすることがあるのです。例えば、調理器具をきれいに洗ったつもりが、細菌の付着テストをしてみると、菌がいっぱい残っていたりすることがあります。つまり、見た目がきれいだからといって、清潔だとは限らないのです。このビデオは、見た目のきれいさと実際の清潔さとは違うことを理解させ、洗浄の大切さとそのコツを教えてください。</p> <p>●怖い調理器具の洗い残し ●まな板の正しい洗い方 ●消毒剤の知識 ●ふきんの正しい洗い方 ●機器・設備の洗浄・消毒</p>		

<b>F835</b>	<b>よりよい介護生活を送るために</b>	<b>DVD 時間25分 東シネ</b>
監修	東海大学教授 井上千津子	
ポイント	ーいよいよスタートした介護保険を活用して在宅でのよりよい介護生活を送るために どうしたらよいのかの実例とヒントをわかりやすく描いた待望の教材ビデオー	
内容	<p>①在宅サービスを利用している高井伸江さんの場合 24時間巡回型ホームヘルパー、滞在型ホームヘルパー、理学療法士によるリハビリ、通院解除、医師の指導、入浴サービス、社会福祉協議会の有料ボランティア、訪問看護の健康状態チェック、介護の指導、配食サービスなどを組み合わせた実例を見せ、監修者にマンパワーの有効な活用とポイント・家族の心構えを語ってもらう。</p> <p>②住宅改修と福祉用具の活用に支えられる井上節子さんの場合 11年前に脳卒中で倒れ後遺症で右方マヒと言語障害の妻を介護する夫の事例 車いす、移動用リフトの活用、横浜市総合リハビリテーションセンター地域サービス室での相談、作業療法士・保健婦による福祉用具選定プラン、段差解消機などの住宅改修、在宅介護支援センターでの相談などを監修者が利用者自身の自立支援と介護者の負担軽減の視点からの解説。</p> <p>③夫婦の協力と工夫で痴呆の親を支える尾崎さんの場合 「呆け老人をかかえる家族の会」の痴呆介護のアドバイス、家族の実体験からくる痴呆高齢者への工夫や心構えなどを監修者に家族介護における痴呆介護のポイントを解説してもらう。</p> <p>④介護保険の仕組みと介護開始までのプロセス、ケアマネジャーの介護認定作業、メニューと介護サービス計画、給付の開始とよりよい介護生活を送るために、監修者からのアドバイス。</p>	

<b>F853</b>	<b>重度視覚障害者の移動介助</b>	<b>VHS 全2巻 中央</b>
監修	ガイドヘルパー技術研究会	
ポイント	<b>ガイドヘルパー養成研修ビデオ教材</b> 99年8月に発行した『ガイドヘルパー養成研修テキスト 重度視覚障害者研修課程』をもとに、外出介助の前に必要な知識や心がけを示した第1巻、屋外の移動介助を中心に場面を設定し解説した第2巻にそれぞれ内容を分け、方法・技術をわかりやすく編修した。安全で快適な介助の手引となるシリーズ。ガイドヘルパーを目指す方だけでなく、ボランティアや介護職の研修にも使えるビデオ。	
内容	<p><b>第1巻 移動介助の基本(時間21分)</b>          移動介助の基本姿勢/基本姿勢の変形/危険な移動介助/狭い場所の通り抜け/混雑した場所での移動介助/方向転換/サイド(左右)の位置交代/押しドアの通行/引きドアの通行/引き戸の通行/背あてのあるいすへの着席/背あてのないいすへの着席/一時的にガイドヘルパーと視覚障害者が離れる場合</p> <p><b>第2巻 移動介助の実例 ―屋外の移動介助を中心に―(時間34分)</b>          屋外での移動介助の留意点/階段(昇降)での介助/エスカレーター(昇降)での介助/自動車利用時の介助/鉄道利用時の介助/テーブルオリエンテーション/トイレ利用時の介助</p>	

<b>F854</b>	<b>重度脳性まひ者等全身性障害者の移動介助</b>	<b>VHS 全2巻 中央</b>
監 修	ガイドヘルパー技術研究会	
ポイント	<b>ガイドヘルパー養成研修ビデオ教材</b> 99年8月に発行した『ガイドヘルパー養成研修テキスト 重度脳性まひ者等全身性障害者研修課程』の車いす介助を中心に、移動介助をする前の準備、心がけ、基本知識を解説した第1巻、実際の移動介助のなかで、状況に応じて活用できるさまざまな技術を解説した第2巻と内容を分けて、編修した。安全で快適な車いす介助のための手引となるシリーズ。ガイドヘルパーを目指す方だけでなく、ボランティアや介護職の研修にも活用できるビデオ。	
内 容	<b>第1巻 移動介助の基本 —移動介助をはじめる前に—</b> (時間10分) 服装・持ち物／外出前の注意点／車いすの構造と機能／車椅子の扱い方とチェック／事故時の対応	
	<b>第2巻 移動介助の実際 —車いすの介助を中心に—</b> (時間28分) 車いすへの移乗／座位姿勢を整える／平地での移動介助／混雑した場所での移動介助／事故防止のための注意点／不整地での移動介助／坂道、段差、溝での介助／階段の移動／エレベーターの利用／エスカレーターの利用／歩行介助／リフト付き自動車の利用／鉄道の利用	

<b>F855</b>	<b>こころに響く接遇</b>	<b>VHS 時間39分 中央</b>
監 修	白澤正和	
編集代表	兩宮恵美	
ポイント	<b>ホームヘルパーのための実践ビデオ</b> いま、ホームヘルプサービスにおける「接遇」の重要性が問われています。「こころに響く接遇」とは？このビデオでは、利用者が主役となる「接遇」のあり方を、ロールプレイングや実際の場面を通して分かりやすく解説します。また、接遇改善の方法についても概説します。ホームヘルパー・訪問介護事業者・ホームヘルパー養成機関等にとって必見のビデオです。	
内 容	1.接遇とは？ 2.ロールプレイングで考える 3.利用者本人が主役となる接遇のポイント 4.利用者の立場に立った接遇 5.こころに寄り添いながら自立を支援する 6.たとえ返事ができなくても 7.訪問前の準備 8.電話の応対 9.プロフェッショナルとしての条件 10.接遇を通してのヘルパー自身の成長 11.こころに響く接遇	

<b>F864</b>	<b>訪問介護計画のつくり方</b>	<b>VHS 全3巻 中央</b>
監 修	白澤政和	
ポイント	<b>利用者の力を活かす援助プロセス</b> リスク予防と利用者の可能性を同時実現するとともにホームヘルプサービスの質がみるみる高まる訪問介護計画のつくり方を紹介します。援助プロセス全体のなかでホームヘルプサービスの質を向上させる訪問介護計画の作成方法を考える実践的ビデオです。このビデオシリーズでは、ひとつの事例を題材に取り上げ「訪問介護計画」の作成及び実施の方法をわかりやすく解説します。「情報収集→計画の作成・実施→モニタリング→計画の修正」といった流れのなかで、利用者の生活を支えながら、利用者の力を活かす訪問介護計画のあり方を考えていきます。	
内 容	<b>情報収集(時間32分)</b> 訪問介護計画を作成するために必要となる情報の集め方について、その実際をみていきます。	
	<b>計画の作成・実施(時間32分)</b> 収集した情報に基づき、どのように計画を作成し、実施に移していくのかを考えてみます。	
	<b>モニタリングと計画の修正(時間34分)</b> 利用者の変化や評価に伴って、訪問介護計画をどのように見直していくのかについて解説します。	
	<b>介護保険制度では訪問介護計画の策定が義務づけられています。</b> 「訪問介護計画」とは、指定訪問介護事業所のサービス提供責任者が、居宅サービス計画(ケアマネジャーが作成するケアプラン)の目標実現に向けて、利用者との共同作業のなかで、サービス提供段階における具体的な目標と実施方法等を明らかにする計画です。この計画を作成し、サービスを実施することによって、訪問介護(ホームヘルプサービス)は、利用者に対してより円滑に提供され、ひいては、サービス全体の質の向上にもつながります。	

<b>F858</b>	<b>あぶない!!タバコが命をねらっている</b>	DVD 時間24分 東シネ
監 修	宮崎恭一(日本禁煙協会会長)	
ポイント	<p>新たな視点で描く禁煙教育ビデオ 海外の禁煙事情、禁煙教育の情報をCMなどを通して紹介。 日本の未成年者の声を中心に構成・演出。新しい禁煙教育ビデオ</p> <p>—子供から大人まで、改めて喫煙の害を考えてもらい、行動に結びつけましょう— 未成年者喫煙禁止法が制定されて100年にもなるのに、タバコを吸う中学生や高校生の姿がごく当たり前のように見られ、街にはタバコの自動販売機やかっこいい宣伝広告がいたる所にあふれています。</p> <p>世界保健機関(WHO)による「たばこ規制枠組み条約」の公聴会でタバコ会社が「タバコは害があり、がんや心臓病その他の原因となる」とはっきり表明し、禁煙は世界的な潮流となっています。海外で販売される日本のタバコにも害のあることを明記しています。</p> <p>しかし日本の未成年者は、いまだにタバコをファッションの一部と考えたり、大人へのあこがれ、大人への反抗などを理由にして、タバコに手を出しています。</p> <p>こうした現状をふまえて日本のティーンエージャーの意識(インタビュー)や海外の禁煙CM・アメリカの高校生による禁煙活動などを紹介し、日本と海外の禁煙事情の違いを理解させます。このビデオは「タバコは薬物であり、きわめて依存性が強く、麻薬・覚せい剤へと移行する危険性を知り、自らの力で判断し、喫煙防止の行動を起こせる人を育てる」ことを目的に制作したものです。</p>	

<b>F859</b>	<b>介護の現場で学ぶ</b>	DVD 時間44分 東シネ
監 修	井上千津子(金城大学教授)	
ポイント	<p>高校生のための社会福祉実習 社会福祉実習で大切なことは職員や利用者との関わりを通して『なぜそうするのか』を、しっかりと見て、考えることです。</p> <p>人が人を援助する『対人援助技術』をしっかりと身につけるためには、実際の介護の現場での実習が不可欠です。</p> <p>社会福祉実習とは、これまで学校で学んできた福祉や介護の知識や技術を、利用者や職員との関わりを通して生徒自らが体得していくものですが、その実習を効果的で、意義あるものになくしては実習本来の目的は達成できません。</p> <p>このビデオは、実際に実習を体験する生徒たちの実習の現場での戸惑いや発見(気づき)から介護の大切さを学んでいく姿をドキュメントで追いながら、実習の重要性を学ぶと共に、望ましい実習へののぞみ方を考えるものです。</p>	
内 容	○事前学習・事前訪問 ○特別養護老人ホームでの実習 ○デイサービスセンターでの実習 ○ホームヘルプサービスの実習	

<b>F860-1</b>	<b>みんなで楽しく健康づくり</b>	DVD 全2巻 東シネ
セット内容	<b>F860 何故運動が大切なのか</b> <b>F861 体力測定とウォーキング</b>	
監 修	武井 正子 順天堂大学スポーツ健康科学部 教授	
ポイント	<p>健康とは誰にとっても大切なものです。</p> <p>厚生労働省ではすべての国民が健康で明るく元気な毎日過ごせるよう「健康日本21」を策定し、国民みんなが行う健康づくりをすすめています。</p> <p>老人クラブでは仲間と一緒に生きがいのある健康な生活を送れるよう、一人ひとりの体力や健康状態にあわせて楽しみながら体を動かす「運動による健康づくり」活動を推進しています。</p> <p>このビデオではその活動に多くの人に参加してもらえるように、第1巻では“高齢者にとって運動とは何か”“運動の効果とは”をわかりやすく解説し、第2巻ではその人その人の体力や体の状態にあわせた運動の進め方を、体力測定やウォーキングを通して紹介します。</p>	
<b>F860</b>	<b>何故運動が大切なのか</b>	時間20分
	<p>体力の低下は加齢だけが原因ではありません。日頃の運動不足も大きく影響しています。特に近年、生活が便利になり、そのことが運動不足に拍車をかけています。それは高齢者も同様です。</p> <p>そこで、運動が何故大切なのか、そして、どんな効果があるのかなど基礎知識をわかりやすく解説し、みんなで楽しく運動することの大切さについて学びます。</p> <p>■高齢者にとって運動とは ■運動による効果 ■健康づくりと老人クラブ</p>	
<b>F861</b>	<b>体力測定とウォーキング</b>	時間27分
	<p>年をとっても自分のことは自分でできる体力はとても大切なものです。また、趣味や旅行といったことが行える体力があれば生活を豊かにすることができます。</p> <p>そのためには自分自身の体力を知り、自分の体力にあわせた運動を行い、それを継続していくことが大切です。</p> <p>このビデオではみなさんがどのくらいの体力があるかを知るため老人クラブで奨めている体力測定の進め方とその結果を活かしたウォーキングのポイントについてご紹介します。</p> <p>■体力測定をやってみよう ■みんなで楽しくウォーキング</p>	

<b>F865-1</b> ビデオで見る介護保険情報		DVD 全3巻 東シネ
セット内容	<b>F865</b> ビデオで見る介護 保険情報(I) <b>F866</b> ビデオで見る介護 保険情報(II) <b>F867</b> ビデオで見る介護 保険情報(III)	
ポイント	<p>これまでにない新しい制度として介護保険がスタートしましたが、その仕組みやサービスの内容等は複雑で、分かりづらいという声をよく聞きます。</p> <p>このビデオは介護保険についての基本的な情報を映像でわかりやすく解説したものです。</p> <p>介護に直面している人はもとより、福祉を学ぶ学生、新しく介護保険の担当窓口になった自治体の職員の方々などを対象に、介護保険の仕組みについての理解を深め、より適切なサービスの利用が行われることを願って制作されました。</p>	
<b>F865</b>	ビデオで見る介護 保険情報(I)	時間46分
	1 介護保険の手引き 2 訪問サービス1 3 訪問サービス2 4 通所サービス 5 短期入所サービス	
<b>F866</b>	ビデオで見る介護 保険情報(II)	時間15分
	6 その他の介護保険サービス 7 施設サービス	
<b>F867</b>	ビデオで見る介護 保険情報(III)	時間30分
	8 入浴のための福祉用具 9 排泄のための福祉用具 10 車いすなどの移動のための福祉用具 11 特殊寝台とじょうそう予防のための福祉用具 12 住宅改修	
	介護保険について知りたい方、大学、高校、福祉専門校の教材に、団体等の講習・研修用に、また、各役場や病院・施設等での上映用に、是非、お役立て下さい。	

<b>F883-1</b> 福祉用具の活用法シリーズ		DVD 全5巻 東シネ
セット内容	<b>F883</b> ケアプランと福祉用具の活用 <b>F884</b> 起居動作の介護と褥そう予防 <b>F885</b> 車イスの選び方	<b>F886</b> 移乗のためのリフトの利用 <b>F887</b> 福祉用具と住宅改修の併用
監修	京極高宣 日本社会事業大学 学長 市川 洵 福祉技術研究所 所長	
ポイント	<p>介護保険と新しい福祉用具の活用法</p> <p>介護保険下の在宅ケアにおいて、福祉用具の活用と住宅改修の意味は、益々重要になってきています。ケアマネージャーは、利用者の自立を高めるために、アセスメントを行い、利用者及び家族のニーズとデマインズを調整し、ケアプランを立てます。情報の収集と調査、関係者との連携を密にとりながらもっとも適した福祉用具、住宅改修を行い、その際それらの活用法を十分理解した上で導入されなければなりません。</p> <p>このビデオはケアマネージャーや関係者はもとより、利用者、家族に福祉用具を充分理解した上で活用していただくための最適な教材として作られました。</p>	
<b>F883</b>	ケアプランと福祉用具の活用	時間23分
<b>F884</b>	起居動作の介護と褥そう予防	時間17分
<b>F885</b>	車イスの選び方	時間22分
<b>F886</b>	移乗のためのリフトの利用	時間19分
<b>F887</b>	福祉用具と住宅改修の併用	時間22分

<b>F868-1</b>	身体拘束廃止・ビデオシリーズ 身体拘束をしない そこからケアをはじめ	DVD 全4巻 東シネ
セット内容	<b>F868</b> 身体拘束なぜいけないのか ～拘束廃止の理念と取り組みの進め方～ <b>F869</b> 身体拘束がなくなる介護の方法と工夫 ～組織的な取り組みと基本的ケアの徹底～ <b>F870</b> いきいきと暮らす介護の方法と工夫 ～環境の整備とチームケアによる取り組み～ <b>F871</b> 介護現場におけるリスクマネジメント	
監修	田中とも江 元 上川病院総婦長 拘束廃止研究所所長	
ポイント	<b>監修の言葉</b> 田中とも江 拘束は絶対に無くせません。それができないと考えている施設や職員は、『廃止しよう』という気持ちが無いだけです。本来、看護・介護というのは、患者さんや利用者を「縛る」ことではなく「心を癒す」ためのものです。「縛りつける」ことで生きる意欲を奪うのではなく、人間としての誇りと生きる喜びを回復させるため援助をすることです。そういう意味では身体拘束は最終目標ではありません。身体拘束廃止への取り組みとは、介護の主体である利用者みなさんが、毎日を笑顔で暮らせる質の高いケアを提供することであり、日々の実践を通して、介護の現場で働くみなさん自身が人間として大きく成長していくことなのです。 全てのケアの現場から利用者の笑顔が溢れるよう、身体拘束廃止の取り組みを果敢に進めていきましょう。	
<b>F868</b>	身体拘束なぜいけないのか ～拘束廃止の理念と取り組みの進め方～	時間23分
	○今でも行われている拘束 ○身体拘束の禁止となる具体的行為 ○拘束を容認する考えを生みだした歴史的背景と福岡宣言 ○身体拘束廃止に向けて、まずなすべきこと ○質の高いケアをめざして、チャレンジしよう!!	
<b>F869</b>	身体拘束がなくなる介護の方法と工夫 ～組織的な取り組みと基本的ケアの徹底～	時間26分
	○身体拘束を廃止している施設での点描 ○身体拘束廃止に向けての組織的な取り組みの事例 ○基本的ケアの徹底、その方法と工夫 起きる・食べる・排泄する・清潔にする・アクティビティの5つの基本的ケアに先駆的に取り組む施設の事例から ○痴呆の人への接し方	
<b>F870</b>	いきいきと暮らす介護の方法と工夫 ～環境の整備とチームケアによる取り組み～	時間26分
	○環境上の整備と工夫 ・転倒・転落防止の工夫(ベッドの改善と工夫) ・夜間のケアへの配慮と工夫 ○座位姿勢の保持の工夫 ・車いす長時間使用の弊害と危険 ・車いすから椅子への移乗の意味 ・体にあった車いすの工夫 ・足が床に着くための意味と工夫 ・職員一人一人がチームの一員として知恵を出し合い工夫を考える ○身体拘束廃止を実現した施設の取り組みのドキュメント	
<b>F871</b>	介護現場におけるリスクマネジメント	時間24分
	○骨折をさせないために身体拘束を希望する家族の苦渋の選択 ○事故に備えた体制づくりの重要性 ○ある転倒事故を教訓に、職員が一丸となって事故対応マニュアルを再検討するドキュメント ○転倒事故などの法的責任について 厚生労働省・身体拘束廃止委員会・高村浩 弁護士の話 ○死亡事故のショックを乗り越えてよりよいケアをめざすある施設の挑戦よりよいケアの構築をめざす施設の取り組み方から学ぶ 介護保険制度の施行にともない身体拘束は禁止となりました。 しかし、各都道府県の身体拘束実態調査によれば、介護保険適用施設の5割以上で、依然として何らかの身体拘束があることが明らかになっています。 身体拘束を行う大きな理由に「安全の確保」が上げられていますが、果たして身体を拘束することで本当に安全の確保はできるのでしょうか？ このビデオは、身体拘束をしなくても安全が確保され、利用者一人ひとりがその人らしく人間としての尊厳を失わずに、生き生きと暮らせるケアのあり方について、実際に身体拘束廃止に向けた取り組みを進めている全国の介護保険適用施設の事例を紹介する中で、視聴者が学び、考える実践的教材として製作されました。	

<b>F882</b>	高脂血症にご用心!-血管を若く保つために-	VHS 時間24分 桜
監修	中村丁次 聖マリアンナ医科大学病院栄養部長	
ポイント	高脂血症とは、一体どのような症状か、どのようにして動脈硬化がおこるのか、そのメカニズムをわかり易く解説し、動脈硬化の一大要因となっている高脂血症への注意を促し、その改善と予防対策を示す。高脂血症は、特別な病気ではなく、誰もがなる可能性があるという意味から、高脂血症を持つ40代後半の男女二人の食事と運動についての改善実践例を通して、生活習慣が主な原因であることを訴え、より身近な問題として考えてもらうきっかけとする。	

<b>F862-1</b>	これからの痴呆介護のためのビデオシリーズ グループホームの実践から学ぶ VHS 全2巻 東ソネ	
セット内容	F862 グループホームで創る生活ー京都・グループホームはつねー F863 ほけても その人らしくー横浜・グループホーム青葉台ー	
監修	永田久美子 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター 主任研究主幹	
ポイント	グループホームってどんなところなのでしょう。 グループホームでは、どの様なケアが行われているのでしょうか？ このビデオは、これからの痴呆の人への介護を考える映像教材です。	
<b>F862</b>	グループホームで創る生活ー京都・グループホームはつねー	時間40分
<b>F863</b>	ほけても その人らしくー横浜・グループホーム青葉台ー	時間40分
<p>いま痴呆症の高齢者のためのグループホームに多くの関心が寄せられています。では、グループホームとはどんなところなのでしょう？</p> <p>痴呆の人への介護における今後の最も大きな課題だといわれていますが、グループホームは、これまでの痴呆介護への経験と反省の中から生まれた、これからの痴呆介護への新しい挑戦の場です。このビデオは、そうした取り組みの様子を、実際のグループホームでの職員と入所者の方々の日々の生活の中に追いつながら、グループホームへの理解と、これからの痴呆介護のありようを学ぶ教材として制作されました。</p>		

<b>F874-1</b>	生命の科学	DVD 全8巻 医映
セット内容	<b>F874</b> ヒトとは 身体を構成するもの <b>F875</b> ヒトとは 外部情報の獲得と精神機能 <b>F876</b> ヒトとは 随意運動のしくみ <b>F877</b> ヒトとは 生命を継ぐ	<b>F878</b> 生命の維持システム 血液循環の機能 <b>F879</b> 生命の維持システム 栄養の摂取と利用 <b>F880</b> 人体の防御システム 内部環境の維持 <b>F881</b> 人体の防御システム 防御のしくみ
監修	高松 研 東邦大学 医学部 生理学第2講座 教授	
ポイント	生体機能のメカニズムについて、「ヒトの身体にはどのようなしくみがあって、どのように機能しているのか」をCGイラストレーションを駆使し、分かり易く解説した最新メディカルサイエンス映像です。健康教育・ウェルネスや医療・福祉の学生教育用に授業やメディカルライブラリーとしてご活用下さい。	
<b>F874</b>	ヒトとは 身体を構成するもの	時間41分
<b>■</b> 生命の単位・細胞(構造、細胞膜・細胞内小器官の働き～膜輸送、エネルギー生成、物質代謝、細胞の興奮) <b>■</b> 生命現象を支える臓器(いろいろな細胞とその機能特性～神経細胞・筋細胞・腺細胞・上皮細胞など→組織→器官・器官系)		
<b>F875</b>	ヒトとは 外部情報の獲得と精神機能	時間41分
<b>■</b> 脳の機能～神経ネットワーク、大脳の機能の概略、外部情報の処理、高次脳機能(記憶・判断・感情・思考) <b>■</b> 感覚受容器と情報伝達(視覚・聴覚・皮膚感覚の受容器と情報伝達経路)		
<b>F876</b>	ヒトとは 随意運動のしくみ	時間37分
<b>■</b> 運動器(筋・骨・関節の機能、筋収縮のしくみ・エネルギー) <b>■</b> 運動のコントロール(運動の意志・計画・司令・実行・制御～大脳の領域・錐体路・錐体外路、運動記憶と技の獲得)		
<b>F877</b>	ヒトとは 生命を継ぐ	時間44分
<b>■</b> 発達(発育・成熟・老化、身体と機能の変化) <b>■</b> 生殖のしくみ(生殖器官と生殖細胞) <b>■</b> 遺伝のしくみ(種の保存・形質を伝える)		
<b>F878</b>	生命の維持システム 血液循環の機能	時間39分
<b>■</b> 血液の役割:血液成分、酸素・二酸化炭素の輸送 <b>■</b> 循環器系:循環のしくみ、心臓のポンプ機能、血管の機能、循環の調節 <b>■</b> 組織の末梢循環:肺～ガス交換、小腸・肝～栄養素の吸収・処理、腎～老廃物排泄		
<b>F879</b>	生命の維持システム 栄養の摂取と利用	時間35分
<b>■</b> 三大栄養素:三大栄養素の物性、糖質とタンパク質の消化吸収、脂質の消化吸収 <b>■</b> 消化活動:口腔・食道での消化、胃の消化活動、小腸の消化・吸収機能、大腸の機能 <b>■</b> 栄養素の利用:ブドウ糖・脂質～エネルギー源、アミノ酸～タンパク質の合成		
<b>F880</b>	人体の防御システム 内部環境の維持	時間40分
<b>■</b> ホメオスタシス:内部環境～水分・電解質・糖・温度・pH、自律神経・内分泌系の働き <b>■</b> 体液の調節:水分量・Naイオン濃度の調節、浸透圧の調節、pHの調節・酸-塩基平衡 <b>■</b> エネルギーの調節:血糖値の調節、体温の調節、循環系の調節		
<b>F881</b>	人体の防御システム 防御のしくみ	時間41分
<b>■</b> 解毒のしくみ(低分子化学物質):体内動態、肝臓の働き～代謝反応・抱合反応 <b>■</b> 免疫のしくみ(高分子物質・病原微生物):自然免疫、獲得免疫(細胞内・外増殖菌) <b>■</b> 免疫系のトラブル:アレルギー、自己免疫疾患、移植拒絶反応、免疫不全		

<b>F872-1</b>	<b>ビデオ・介護予防シリーズ 転倒・骨折予防</b>	<b>DVD 全2巻 東シネ</b>
セット内容	<b>F872</b> なぜ必要なのでしょう <b>F873</b> 転ばない体づくり ～介護予防教室から～	
監修	鈴木隆雄 東京都老人総合研究所 副所長	
体操指導	金 憲経 東京都老人総合研究所 主任研究員	
ポイント	<p>いつまでも健やかに 自立した生活を送るために</p> <p>高齢者が要介護の状態になるのを防ぐために、また、寝たきりなど介護状態をそれ以上に悪化させないために、いま、国でも、介護予防への取り組みを進めています。介護予防は高齢者の健康寿命を延ばし、いつまでも健やかに、自立した生活を送る上で欠かせない大切なことですが、中でも、閉じこもりや寝たきりを誘発する大きな原因の一つに転倒による骨折があります。</p> <p>このビデオは、高齢者にとっては非常に怖い転倒・骨折を防ぐために、転んでも骨折しない体づくりを中心にバランス能力や筋力を強めるためのポイントについてみていきます。</p>	
<b>F872</b>	<b>なぜ必要なのでしょう</b>	<b>時間24分</b>
「転倒・骨折予防」は介護予防の大きな柱の一つであるが、このビデオでは、骨折のもとになる転倒を無くすために、転倒を引き起こすさまざまな要因から転倒・骨折の予防について考え、転倒骨折をおこさない日常生活における注意点や改善策について見ていく。		
<b>F873</b>	<b>転ばない体づくり ～介護予防教室から～</b>	<b>時間28分</b>
転倒・骨折を無くすために、いま、全国の自治体や保健所などで「転倒予防教室」「介護予防教室」を行うところが増えてきている。この転倒・骨折予防(2)では、『転ばない体づくり』を中心に、全国の介護予防教室におけるプログラムや運営の手引きとなることを目的に、東京都老人総合研究所との連携のもとに、介護予防教室に先進的に取り組んでいる東京都板橋区の赤塚健康福祉センターの取り組みから見ていく。		

<b>F913-1</b>	<b>ひとり一人が輝く認知症ケアシリーズ</b>	<b>DVD 全5巻 INT</b>
	<b>“認知症のある人”が笑顔を取り戻すために…。</b>	
セット内容	<b>F913</b> 心の奥に気づくには？[メッセージの読み取り] <b>F916</b> 気持ちのよい排泄とは？[排泄のケア] <b>F914</b> 居場所探し[帰宅願望] <b>F917</b> 不安や怒りの裏づけ[不穏・興奮・攻撃] <b>F915</b> おいしく食べるには？[食のケア]	
監修・指導	水野 陽子 社会福祉法人若竹大寿会・グループホームわかたけ西管田／小机グループホーム事業統括責任者	
監修	三浦 規 元・聖マリアンナ医科大学看護専門学校長 梅橋 千恵子 社会福祉法人 若竹大寿会／リハビリート青葉副施設長	
ポイント	帰宅願望や興奮・攻撃、異食、排泄の異常行為など、認知症の人によく見られる行動障害は、ひとり一人が輝くことができるケアにより、改善できます。本シリーズでは、行動障害のある人がその人らしい笑顔を取り戻すための実践の記録を、ドキュメンタリー映像で紹介。認知症の行動パターン、そしてそれにどのように向き合い、理解し、介入すればよいのかがよくわかる実践の記録です。	
<b>F913</b>	<b>心の奥に気づくには？[メッセージの読み取り]</b>	<b>時間30分</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●入居者とスタッフの散歩の記録ビデオ</li> <li>●ビデオを見て話し合うスタッフ・ミーティング</li> <li>●CGで見るケアのプロセス</li> <li>●「気づき」から、料理に加わることができた入居者</li> <li>●失語症の入居者の目を見て、意思を読み取る</li> <li>●重度アルツハイマー病の入居者が声・目・手で伝える意思表示</li> <li>●「気づき」から、靴下の穴かがりを実践して見せる例</li> <li>●「植物が大好き」と気づく大切さ</li> </ul>		
<b>F914</b>	<b>居場所探し[帰宅願望]</b>	<b>時間30分</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●入居者の夜間外出に、スタッフが付き添う記録ビデオ</li> <li>●ビデオを見て話し合うスタッフ・ミーティング</li> <li>●外出した方と一緒に戻るスタッフ</li> <li>●「帰宅願望」によりホームを歩き回る入居者</li> <li>●ホームの姿勢とスタッフの取り決め</li> <li>●日々起こる帰宅願望に対応するケアの実例</li> <li>●生活歴と残っている力に応じた暮らしの組み立て、役割の発見</li> <li>●庭に野菜畑を作り、ホームが居場所になった実例</li> </ul>		
<b>F915</b>	<b>おいしく食べるには？[食のケア]</b>	<b>時間30分</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●入居を拒み、拒食した方の記録ビデオ</li> <li>●ビデオを見て話し合うスタッフ・ミーティング</li> <li>●行動障害のひとつ—拒食が解消された実例</li> <li>●手づかみで食べる方へのケア</li> <li>●好きな物を自由に食べられるケア</li> <li>●重度の認知症のある人の声や目、手の動きによる意思表示。おいしく食べるケア</li> <li>●入居者とスタッフがいっしょに取り組む[メニュー作り]</li> </ul>		
<b>F916</b>	<b>気持ちのよい排泄とは？[排泄のケア]</b>	<b>時間30分</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●放尿を見たスタッフのインタビュー記録ビデオ</li> <li>●ビデオを見て話し合うスタッフ・ミーティング</li> <li>●室内の放尿に関するスタッフの話し合い</li> <li>●室内での放尿報告に応じて、ケアの課題を解き明かすホーム長</li> <li>●大便放置の報告に応じて、ケアの課題を解き明かすホーム長</li> <li>●ひとり一人の排泄パターンを記録した排泄表</li> <li>●本人が発しているメッセージに「気づく」重要性</li> <li>●自尊心を傷つけない誘導の大切さ</li> </ul>		
<b>F917</b>	<b>不安や怒りの裏づけ[不穏・興奮・攻撃]</b>	<b>時間30分</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●突然、怒り出す方の記録ビデオ</li> <li>●ビデオを見て話し合うスタッフ・ミーティング</li> <li>●不穏や興奮など、行動障害の位置づけ</li> <li>●興奮を鎮める「傾聴」、「共感」の必要性と効果</li> <li>●最愛の夫が訪ねてきた際の幸せの表情</li> <li>●自慢の胡麻すりを見せる喜びの表情</li> <li>●興奮状態の記録ビデオから怒りの一因として推理される、その場しのぎの対応</li> <li>●怒りを静めるチームケア</li> </ul>		

<b>F888-1</b>	新しい 痴呆性高齢者の介護シリーズ	DVD 全2巻 東シネ
セット内容	<b>F888</b> 痴呆の早期発見・対応 <b>F889</b> 住民とともに進める地域型痴呆予防プログラム	
<b>F888</b>	痴呆の早期発見・対応	時間28分
<b>症状の進行を遅らせ 尊厳あるケアをおこなうために</b> 人口の高齢化に伴い痴呆症の高齢者の数が急増。21世紀は痴呆介護の時代とも言われています。近年、痴呆の原因は少しずつ解明され、その治療や対応の方法も進んできています。そして、痴呆の種類によっては治るものもあり、早期に発見・治療することで進行を遅らせることも可能となりました。しかし、「痴呆は病気である」ということへの認識の低さや、痴呆を年のせいとして軽く考えるなど、現状では痴呆の早期発見・対応が遅れがちです。そのため、当人はもとより、介護されるご家族の方々にも不安や戸惑いが生じたり、「痴呆」を受け止められないといった混乱の中で、日々介護に悩んでいる方も少なくありません。 このビデオは、ともすると「年のせい」として見過ごされがちな「痴呆」のさまざまなサインに本人や家族が気づき、できるだけ早期に診断に結びつけることの大切さと、その後の対応について解説したものです。 [監修]本間 昭 東京都老人総合研究所 参事研究員・医学博士		
1.プロローグ 戸惑い、否定、困惑、そしてもっと早く受診していれば… 2.痴呆は早期発見が大切! 3.痴呆の基礎知識をふまえて早期に適切な対応を 4.上手に診察を受けるには 5.受診はどのように行われるのか? 6.治療はどういうふうにか? 7.家族や身内だけで抱え込まずに、社会的サービス等の利用を 8.エピローグ 安心して毎日を過ごすために		
<b>F889</b>	住民とともに進める地域型痴呆予防プログラム	時間30分
東京都老人総合研究所が行っている「痴呆予防」への科学的なプログラムを地域活動に取り入れ、住民とともに痴呆予防活動に取り組んでいる自治体の例を紹介し、それぞれの自治体や地域で痴呆予防活動が広がることを願って制作された。 [監修]東京都老人総合研究所痴呆介入研究グループ		
①痴呆予防プログラムを立ち上げる ②痴呆プログラムとは ③痴呆予防プログラムの実際の展開 ④ファシリテータの存在と役割 ⑤「痴呆予防プログラム」推進における行政の役割 ⑥「痴呆予防プログラム」活動結果の評価		

<b>F890-1</b>	いつまでも健やかに 自立した生活を送るために 閉じこもり・寝たきりの原因	DVD 全2巻 東シネ
セット内容	<b>F890</b> 廃用症候群とは? <b>F891</b> 廃用症候群を防ぐ	
ポイント	<b>文部科学省選定</b> 介護予防は高齢者の健康寿命を延ばし、いつまでも健やかに、自立した生活を送る上で欠かせない大切なことです。そのためには転倒・骨折の予防、肺炎の原因となる気道感染予防、閉じこもり予防が三つの柱です。中でも、まだ一般の人には馴染みの薄い廃用症候群は閉じこもりの原因となります。運動不足や、家庭における過剰な介護で、全身の筋力が衰えたり、関節が拘縮してしまいます。更には、内臓の機能と精神活動が不活発になって、家から表に出ない閉じこもりや寝たきりとなってしまいます。このビデオでは廃用症候群とはいったいどのようにして起きるのか?またそれをどのようにして予防し、高齢者の日常生活動作を高めていけばいいのかをみていきます。	
<b>F890</b>	廃用症候群とは?	時間19分
廃用症候群は、高齢者が病気や障害などによって日常生活の活動性が低下したり、安静を保たなければいけないときに発生する、二次的な機能の衰えをいいます。平たくいえば、体を動かさないことによる、全身の機能と精神活動の低下です。また家庭にあつては「介護者が体を動かして介助するよりは、寝ていてもらった方が楽」といった安易な考え方や、逆に、本人が出来ることにまで手を出してしまうという、過剰な介護も廃用症候群の原因になります。 この巻では、高齢者が廃用症候群に至る原因・過程、そして対策をわかりやすく解説しています。 [監修]岡島重孝 新百合ヶ丘介護老人保健施設 つくしの里 施設長		
<b>F891</b>	廃用症候群を防ぐ	時間24分
この巻では体が不自由な高齢者の在宅生活を支え、廃用症候群になるのを防ぐためには訪問診療、訪問看護、訪問リハのスタッフを初め、ケアマネジャーやホームヘルパーなどがチームを組んで、きめ細かく支援していくこと、そしてなにより大切なことは利用者本人にやる気を起こしてもらい積極的に体を動かすことだということを、小柳さんの訪問リハビリテーションを中心とした、病状の改善を通して、実際の映像で追っていきます。 [監修]村田嘉彦 むさしの共立診療所 所長		

<b>F893</b> 汚染防止!ノロウイルス対策		DVD 全2巻 PHP
ポイント	<p>●食品製造業から飲食サービス業 急務の危機管理課題!</p> <p>●猛威をふるいかねない病原体ノロウイルス!</p> <p>最近のウイルス性食中毒事例の多くがノロウイルスによるものです。このノロウイルスによる感染には、次の3つが挙げられます。①汚染されたカキ等の二枚貝からの事例、②感染している食品取扱者からの事例、③患者からの二次感染の事例です。現在、ノロウイルスに効果のある薬品がないことから、食品取扱者は予防のための対策が急務となっています。このビデオは、ノロウイルスによる食中毒発生を未然に防止するための知識と具体策を紹介しています。危機管理の一環として従業員教育等にお役立ていただける内容です。</p> <p>[特徴①]データや事例を通して、ノロウイルス食中毒防止の強い動機付けを図ることができます</p> <p>[特徴②]汚染防止のポイントを食品工場や宿泊施設の具体的映像で紹介しています</p>	
内容	<p><b>第①巻 感染力の強いノロウイルス(約15分)</b></p> <p>ノロウイルスの特徴は、強い感染力があり、食中毒事故1件あたりの患者数が多いということが挙げられます。食品取扱者は、食中毒の未然防止のためにも、ノロウイルスの知識をしっかりと持っておかなければなりません。第1巻では、ノロウイルスの特徴の理解と、食中毒防止の意識強化を図ります。</p> <p>●寒い時期でも食中毒を引き起こす ●糞便、吐物に汚染された食品が原因になる</p> <p>●カキなど二枚貝からの感染が多い ●感染力が強く、再感染を繰り返しやすい</p>	
	<p><b>第②巻 食中毒予防のポイント(約15分)</b></p> <p>ノロウイルスの感染予防で大切なことは、すでに取り入れている衛生管理の手法を見直し、さらにレベルアップさせていくことです。第2巻では、ノロウイルス特有の課題を明確にすることによって、食品取扱者としてどういった行動をとればよいかを、具体的に紹介しています。</p> <p>●個人衛生の徹底 ●食材の取り扱い～交差汚染の防止 ●十分な加熱処理 ●施設、調理器具の消毒</p>	

<b>F918-1</b> 目で見える公衆衛生		DVD 全6巻 医映
セット内容	<p><b>F918</b> 健康と公衆衛生</p> <p><b>F919</b> 健康指標と感染症予防</p> <p><b>F920</b> 生活環境の保全</p>	<p><b>F921</b> 健康と生活</p> <p><b>F922</b> 保健活動</p> <p><b>F923</b> 社会保障制度</p>
企画協力	<p>宮本 邦彦 大阪青山大学 健康科学部 教授</p> <p>森岡 郁晴 和歌山県立医科大学 保健看護学部 教授</p> <p>後和 美朝 大阪国際大学 人間科学部 教授</p>	
ポイント	<p>一日で公衆衛生の概要が理解できるように、公衆衛生を完全映像化!</p> <p>覚えておきたい主な保健統計などの資料も充実!!看護学、健康保険科学、体育学、栄養学など幅広い分野の映像教材としてご利用いただけます!</p>	
<b>F918</b>	<b>健康と公衆衛生</b>	時間42分
<p>公衆衛生学は何を学ぶのか、健康をどう捉えるのかを考えます。そして、公衆衛生の歴史、目指すもの、取り扱う内容など、公衆衛生の概要について見ていきます。また公衆衛生が扱う内容の1つ、疫学と疾病予防について解説します。</p>		
<b>F919</b>	<b>健康指標と感染症予防</b>	時間43分
<p>公衆衛生が対象とする集団の健康状態を把握するために用いられるさまざまな健康指標(老年化指数、出生率、死亡率、平均寿命など)、疫学に用いられる有病率や罹患率などの指標について、そして感染症とその予防について解説します。</p>		
<b>F920</b>	<b>生活環境の保全</b>	時間49分
<p>私たちの生活と環境は密接に関わっています。地球環境で問題となっている地球温暖化、オゾン層の破壊、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など、そしてその対策である環境基本法について、また食品と家庭用品の安全や住環境などを制度とともに解説します。</p>		
<b>F921</b>	<b>健康と生活</b>	時間56分
<p>生活習慣の要素といわれる食事、運動、睡眠、喫煙、飲酒などが身体に与える影響、より良い生活を送るための生活習慣の確立、そして生活習慣病とその予防法について解説します。</p>		
<b>F922</b>	<b>保健活動</b>	時間51分
<p>私たちの健康を守り生活を支える保健活動を、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健(職場の健康管理)に分けて、それぞれの統計や制度とともに解説します。</p>		
<b>F923</b>	<b>社会保障制度</b>	時間44分
<p>社会保険制度といわれる医療保険、年金、介護保険などと、それに携わる社会福祉士、介護福祉士、また生活保護や社会福祉(障害者、児童、高齢者福祉)について解説します。</p>		

<b>F924-1 わたしたちのからだと健康 第2版</b>		DVD 全13巻 医映
セット内容	<b>F924</b> 飲酒・喫煙と健康 <b>F925</b> 薬物乱用と健康 <b>F926</b> 性のしくみと働き <b>F927</b> 妊娠・出産と健康 <b>F928</b> 環境汚染と健康 <b>F929</b> 食事と健康 <b>F930</b> 運動と健康	<b>F931</b> 心とからだの健康 <b>F932</b> 高齢社会と健康 <b>F933</b> 応急手当と健康 <b>F934</b> 免疫機能と健康 <b>F935</b> 現代の感染症と健康 <b>F936</b> 労働生活と健康
企画協力	小澤 治夫 東海大学 体育学部 教授 今村 修 東海大学 体育学部 教授 岡崎 勝博 大阪体育大学 体育学部 スポーツ教育学科 教授	
ポイント	生涯を通じて健康に過ごすために、若いときから健康について考えていくことが重要です。この番組は、CGアニメーションや実写映像により、からだのしくみや健康と現代社会の問題について分かりやすく解説しています。授業でそのまま使える発問も満載!保健体育の授業や自己学習に是非ご活用ください。	
<b>F924</b>	<b>飲酒・喫煙と健康</b>	時間39分
<b>酒・たばこの作用とわたしたちの生活</b> アルコールの作用と依存症、イッキ飲みの危険性、そしてたばこに含まれる有害物質(タール、ニコチン、一酸化炭素)が健康に与える影響、受動喫煙の害、健康増進法をはじめとする喫煙への社会的な取り組みなどについて解説します。 [原案監修]今村 修 東海大学体育学部 教授		
<b>F925</b>	<b>薬物乱用と健康</b>	時間25分
<b>ストップ・ザ・ドラッグ</b> 薬物の種類(覚せい剤、シンナー、大麻、向精神薬、違法ドラッグなど)、薬物乱用による健康への影響と社会問題を薬物依存者の生の声を交えリアルに伝えながら、薬物乱用防止の取り組みについて解説していきます。 [監修・原案監修]岡崎 勝博 大阪体育大学体育学部 教授		
<b>F926</b>	<b>性のしくみと働き</b>	時間20分
<b>わたしたちのからだの生殖機能と生命の始まり</b> 思春期におけるからだの発達、男女の生殖器の構造、精子と射精、卵子と排卵、女性の性周期と月経のしくみなどについて解説し、「性」と「生」について考えます。 [原案監修]三島 利紀 釧路工業高等専門学校 准教授		
<b>F927</b>	<b>妊娠・出産と健康</b>	時間25分
<b>生命の誕生からパースコントロールまで</b> 妊娠のしくみ、胎児の成長(超音波画像とアニメーション)、人工中絶や避妊法、そして出産について解説します。その他、妊娠・出産・育児を支える母子保健サービスや家族の協力について考えます。 [原案監修]佐見 由紀子 東京学芸大学附属小金井中学校 教諭		
<b>F928</b>	<b>環境汚染と健康</b>	時間24分
<b>地球環境を守る健康的な生活</b> 地球温暖化の問題、環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染)による健康被害などを解説します。そして京都議定書、3Rなど地球環境を守る方法について考えます。 [原案監修]岡崎 勝博 大阪体育大学体育学部 教授		
<b>F929</b>	<b>食事と健康</b>	時間25分
<b>食事がささえるわたしたちのからだと生活</b> 現在の若者が抱える食生活事情とその問題について解説します。そして男子学生、女子学生がある日に食べた食事を、6つの基礎食品群、食事バランスガイドなどに当てはめながら、バランスのとれた食事について考えていきます。 [原案監修]山崎 美枝 釧路短期大学 准教授		
<b>F930</b>	<b>運動と健康</b>	時間25分
<b>スポーツ・運動がつくるわたしたちのからだと生活</b> 運動不足が引き起こす生活習慣病などの問題について、そして運動が身体(心肺・筋・骨・脳など)に及ぼす効果について解説します。またジョギングを例に運動を始めるための運動プログラムの一例を紹介します。 [原案監修]小澤 治夫 東海大学体育学部 教授		
<b>F931</b>	<b>心とからだの健康</b>	時間23分
<b>心とからだの関わりとわたしたちの健康</b> 心とからだ(大脳・自律神経系・内分泌系の働き)を説明し、心身相関、ストレスのしくみと対処方法などを解説します。自己実現について、さらにいのちの大切さについても考えます。 [原案監修]近藤 卓 東海大学文学部 教授		

<b>F932</b>	<b>高齢社会と健康</b>	<b>時間25分</b>
<b>加齢によるからだの変化と対応する社会</b> 日本の高齢化の動き、からだの老化、高齢者の見聞きする世界を紹介。また、高齢者の不便を支える工夫として、交通バリアフリー法、ハートビル法、ユニバーサルデザインなどについて解説します。 [原案監修]内田 匡輔 東海大学 体育学部 講師		
<b>F933</b>	<b>応急手当と健康</b>	<b>時間30分</b>
<b>ファーストエイド、その理論と実践</b> 呼吸と血液循環のしくみ、心肺蘇生法のABC、AEDの使い方、さらに日常的なけがに対するRICE処置、熱中症の手当などについて解説します。 [原案監修]渡會 公治 東京大学大学院 准教授		
<b>F934</b>	<b>免疫機能と健康</b>	<b>時間20分</b>
<b>病気からからだを守る働きとメカニズム</b> からだを防衛する免疫のしくみ、食事や身体活動と免疫系の関係、免疫力の向上、予防接種、免疫機能の異常によって起こる疾患(免疫不全、自己免疫疾患、過敏症)について解説します。 [原案監修]西端 泉 川崎私立看護短期大学 准教授		
<b>F935</b>	<b>現代の感染症と健康</b>	<b>時間20分</b>
<b>ともに考えよう結核からエイズまで</b> 歴史的な感染症を紹介し、新興感染症、再興感染症など感染症の現状について解説します。そして病原体の主な感染経路(飛沫・空気、経口、接触など)を示し、その予防法について解説します。性感染症(STD)、輸入感染症についても考えます。 [原案監修]小磯 透 国際武道大学体育学部 准教授		
<b>F936</b>	<b>労働生活と健康</b>	<b>時間20分</b>
<b>豊かな人生へのトータルヘルスプロモーション</b> 労働環境の変化、労働災害や職業病(アスベスト被害、VDT障害、過労死、過労自殺)、その予防のための社会や個人の取り組みについて解説し、「働くこと」と健康について考えます。 [原案監修]今村 修 東海大学体育学部 教授		

<b>F937</b>	<b>新セルフチェック基礎介護技術 根拠から理解して身につける DVD 時間137分 東シネ</b>
<b>企画・編集</b>	古谷野 亘／滝波 順子
基礎介護技術のチェックポイントを解説する好評書のDVD版。介護技術の動きを全方位から映像で学べる。各技術のエビデンスも充実しているので、介護技術を暗記ではなく「理解して身につける」ことができる。初任者だけでなく、中・上級者のスキルアップにも最適な一本。	

<b>F938</b>	<b>認知症の人といっしょに生きる DVD 時間68分 東シネ</b>
<b>監修</b>	長谷川 和夫
<b>企画・編集</b>	服部 安子
<b>製作・発行</b>	社会福祉法人浴風会ケアスクール
認知症の行動・心理状況への好ましいかかわりについて、介護者の対応例を比較し、わかりやすく解説。あわせて、介護事業者が利用者主体のサービスを行うために必要な職場の活性化、人材定着・育成を図るプロセスを事例で伝える。地域に支えあいの力を作り上げるヒントも解説。	